



## JAだから、できる「変革の担い手」 朝日新聞SDGs担当専門記者からの提言

本誌でも今年4月号から「協同組合とSDGs」の連載が始まったように「SDGs」の認知度は急速に高まっています。しかし、「持続可能な開発目標」といわれても、誰がどんなことをやればよいのか、理解するのが難しいという声もあります。JAがSDGsの「当事者」として第一歩を踏み出すために何をすればよいのか。「SDGs」を積極的に報道している朝日新聞で、国内外のSDGsに関する現場を取材している記者・北郷美由紀さんに「JAに期待すること」を寄稿していただきました。北郷さんは、JAの地域における「接着剤」としての役割に期待し、JA全国女性組織協議会の「具体的な5つの活動」に注目しています。



### 北郷美由紀 (ほくごう・みゆき)

朝日新聞 記者

2017年1月から始まった報道企画「2030 SDGsで変える」を担当。これまで政治部、国際報道部（インドネシア特派員）、オピニオン編集部で取材。子育てシフトで記者を離れたときは提携大学でジャーナリズム講座を運営していました。

#### JAは地域社会の「接着剤」

JAがSDGsに本格的に取り組むと知り、新聞記者として興味津々、子育て中の母親として心強く思っています。なぜかというとならば、JAであれば、SDGsが持っている「接着剤」の効果を大いに生かすことができるからです。

「接着剤」とは、世界共通の

目標に向かって動くと、これまで知らなかった人たちが出会うことを言い表したものです。SDGsは一つの社会課題が根っこのところでつながっていることに着目し、統合的な解決を目指すものです。裏を返せば、個々に取り組んできたけれど解決できないので、関係する別の問題の人たちと一緒に考えて突破口を見つけ

ようとするものです。グローバル化の進展と科学技術の進化で社会が複雑になり、問題の数だけ専門家がいて縦割りが進んでいます。SDGsは、たこつぼから出でよとの「号令」でもあるのです。

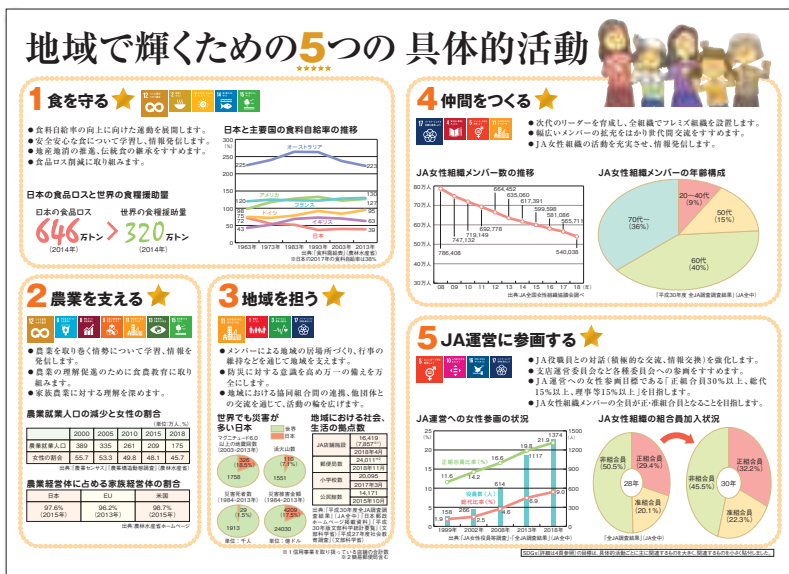
多様な立場の人が取り組むためには、対話の場が必要です。全国に根を張る協同組合のJAは、地域で対話を始め

る場を提供することができま  
す。ぜひ率先してください。  
まずは食と農を「守る」に「広  
げる」をプラスして、呼びか  
けてみることで。大事な  
のは、地域によく目を凝らすこ  
とです。17分野の目標の結び  
つきを考慮し、「関心がありそ  
う」「話を聞いてみたい」人  
がいたら声をかけてみる。そ  
こからこれまで思いつかなか  
ったアイデアが生まれ、新たな  
動きに発展するはずです。

先進的な J A 全国女性協の活動

2019年度からの3か年、J  
Aが活動方針とする※「取組実  
践方策」にはSDGsが明記され  
ました。どうやってやろうか  
と心配している方もいると思  
いますが、すでに実践例があ  
ります。それは全国女性組織  
協議会（J A 全国女性協）の  
取り組みです。

女性協の3か年計画「J A  
女性 地域で輝け 50万パ  
ワー☆」には5つの柱があり  
ます。①食を守る☆、②農業  
を支える☆、③地域を担う☆、  
④仲間をつくる☆、⑤ J A 運  
営に参画する☆。末尾の星印  
には54万人のメンバーそれぞ  
れが輝く願いが込められてい  
るようで、柱ごとに具体的な  
行動目標も盛り込まれていま



「J A 女性 地域で輝け 50万パワー☆」パンフレットから

す。例えば①の食を守る☆で  
は、食料自給率の向上に向け  
た運動の展開、地産地消の推  
進や伝統食の継承、食品ロス  
の削減などが掲げられ、関連  
するSDGsの目標も示されてい  
ます。

先進的なのは自分たちで独  
自の目標を設定し、具体的な  
行動目標を数値も入れて書き  
込んでいることです。これは  
SDGsにいち早く取り組んでい  
る企業や自治体でもなかなか  
できていないことです。世界  
共通という普遍性があるから  
こそ、実施においては個別具  
体的に目標とターゲットをつ  
くるよう、設計した人たちは  
推奨しています。けれどもそ  
れは日本政府でもできていま  
せん。省庁横断で取り組む  
チャンスなのに残念だと、い

つも思っています。

世界で110位、日本の男女平等

そういうわけで、女性協の  
動きに注目しています。中  
でも J A 運営への参画は特筆  
に値します。「正組合員30%  
以上、総代15%以上、理事な  
ど15%以上」は、高い目標だと  
聞きました。けれども「ある  
べき姿」から目標を設定する  
のがSDGsです。早くこの目  
標をクリアし、さらに高い目  
標を掲げてもらいたいです。な  
ぜなら、日本で達成が最も困  
難だとされているのが、「ジェ  
ンダー平等を実現しよう（目  
標5）」だからです。ダボス会  
議で知られる世界経済フォー  
ラムがどれだけ男女平等に近  
いかで各国を比べた調査で日  
本は110位。驚くほどランク

が低いのは、政治と経済でスコアが低いのが原因です。

目標5の中にあるターゲットの一つに、「無報酬の家事労働を認識・評価する」があります。これまで農家の女性が外から見えないところでこなしてきたさまざまな作業や家事を体系的に評価したり、貨幣価値に置き換えて認識したりする。そうすれば、女性のみならず、若い人たちの就農意欲を喚起することにつながるはずです。ぜひ、JA全体で取り組んでほしいです。実現すれば、世界でも先駆的な動きとなります。

### 「変革」への第一歩を踏み出そう

SDGsで求められているのは「変革」です。JAがその担い手となり得る根拠の一つに、金融の機能があります。環境・社会に対するプラスとマイナスの影響や、統治構造を判断材料とする「ESG投資」が高まりを見せています。個々のJAが貸し付けに当たってESG（環境・社会・ガバナンス）への考慮を加えれば、これまでにない成果が生まれるはずです。一方で、機関投資家としてどのような運用を目指すのか、「理念」をいっそう明確に示すことも求められて

います。

多くの可能性がある一方で、課題もあります。SDGsの基底には人を大切にするという人権の尊重があります。だからこそ、「誰も置き去りにしない」ことが基本理念になっています。農作業に従事する外国人の待遇には特に注意してください。技能実習の制度はアメリカ国務省から「人身売買」と指摘されるほど、厳しい目が向けられています。自分のところはちゃんとやっても、取引先などで問題があれば全体の問題として扱われるのが国際的なビジネスの基準です。良いところ取りだけはできないのです。家内労働を前提としてきた分、人権リスクが高いと認識する必要があります。

環境負荷の問題もあります。農業排水がもたらす湖沼や河川への悪影響や大量の水利用、飼料の輸入や作物の運搬に伴う二酸化炭素の排出。日本は人口減ですが、世界全体では人口増で、2050年には

98億人になると推計されています。水と食料の偏在と、それに伴う奪い合いをどう防ぐかはとても大きな課題です。その課題をさらに難しくしているのが地球の温暖化です。このまま進めば、従来の農業は成り立ちません。各JAで「自己改革」が進められていますが、SDGsと照らし合わせてより広範に長期に、持続可能性を探っていくことも求められています。

食と農を支え、未来へボタンをつなぐ大きな使命のもと、JAから地域を元気にし、日本の変革を引っ張る。「そんな大それたこと、望んでないよ。できないよ」と思う方も多いはずですが、けれども、自分の身の回りの状況を良くしたい、子どもや孫の世代に確かなものを残したいと思っていますか？ そうした思いのある人は、すでに「変革」への第一歩を踏み出しています。わくわくしながら、取材に伺う機会を待っています。

・JA全国女性組織協議会の3か年計画は「JA女性 地域で輝け 50万パワー」で検索すると、パンフレット（PDF）をご覧になれます。  
[https://women.ja-group.jp/wp\\_women/wp-content/uploads/2019/01/64\\_taikaipamphlet.pdf](https://women.ja-group.jp/wp_women/wp-content/uploads/2019/01/64_taikaipamphlet.pdf)

・朝日新聞の報道企画「2030 SDGsで変える」のウェブサイトでは、これまでの記事などをご覧になれます。「SDGs 国谷裕子さんと考える」で検索してください。<https://www.asahi.com/special/sdgs/>